



日本語日本文学科 4年 稲垣 律乃さん

— どのような学生生活を送っていますか。 —

日本語学のゼミに所属し、学びを深めています。現在は卒論に向けて研究対象を吟味しているところです。難しい部分も多いですが、指導教員の田和教授に助けをいただきながら自分なりに進めているところです。

また、2年次から司書課程と学芸員課程を履修しています。絶対に司書や学芸員になりたいという訳ではなく、何か資格を取っておこうという理由からでしたが、授業をいくつも受けていく中で興味が生まれ、図書館や博物館に行くことが好きになりました。学内のクラブにも所属し、アルバイトと両立させながら、自分に合ったペースで活動を行っています。勉強の合間にスタジオに行って楽器を練習するのが良い息抜きになっています。

— 課外活動ではどのようなことに取り組んでいますか。 —

「ザ☆バンド」という軽音楽のクラブで活動をしています。去年は部長を務め、コロナ禍でここ数年行われていなかった新入生歓迎会や合宿を再開し、コロナ禍以前の活動に近づけることに尽力しました。さらに去年は文化会の会長を務め、特に個別相談会やクラブ体験会など、新入生の勧誘に力を注ぎました。そのおかげもあり、昨年だけで部員が10人以上増えました。

クラブは週に一度の定例会と、清泉祭やガーデンパーティーといった行事での演奏が活動のメインで、それぞれのバンドがイベントに向けて日々練習を重ねています。観てくださる方を楽しませることができるよう、部員一同も楽しみながら活動をしています。

いよいよ最高学年となり、活動のリミットも迫ってきましたので、今まで以上に一つひとつの活動を大切にしたいと思っています。また、今後もクラブが続いていくように、今できる活動に全力を注ぎ、一人ではなく全員で輝くことができるように活動をしていきたいです。

— 奨学金をどのように活用したいと考えていますか。 —

発展協会からいただいたご支援は、日本漢字能力検定や日本語検定などの参考書代として活用させていただきます。入学して日本語学を学ぶうちに、私たちが普段使っている日本語でも知らないことがたくさんあることに気付き、学びたいという意欲が強くなりました。いただいたご支援でより学びを深め、これからも学習を続けていきたいです。

— 後輩たちへ向けてアドバイスやエールがあれば聞かせてください。 —

勉強、クラブ・サークル、アルバイトと、やりたいことがたくさんある人も、そうではない人もいると思いますが、おそらく人生最後の学生生活だと思いますので、悔いのないように過ごしてほしいと思います。困ったときでも、大学内には頼れる人がたくさんいるので心配はいりません。

クラブ・サークルや委員会などの課外活動では、活動そのものもちろん大事ですが、何よりもクラブ・サークルなどに入ることで縦や横の繋がりができ、かけがえのない居場所が生まれます。課外活動に参加したことのない人は、今からでも遅くありませんので、少しでも興味があったら、迷わず飛び込んでみてほしいと思います。

在学生の皆さんが素敵な学生生活を送ることを願っています。



3月に行われた先輩方の卒業ライブでの一枚。(左端が稲垣さん)



4月21日ガーデンパーティーでの集合写真。(前列左端が稲垣さん)

